

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000694		
法人名	(有)ラポートケア		
事業所名	グループホーム 和 (1Fユニット)		
所在地	〒090-0061 北海道北見市東陵町48番地の19		
自己評価作成日	平成 23年 6月 30日	評価結果市町村受理日	平成23年9月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho.net/hokkaido.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0175000694&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念の中に、『第二の我が家』を目指して地域とふれあいます。と掲げ、地域の繋がりやを深めて来ました。まず、町内会の入会から、今ではビールパティ、新年会、盆踊りと声を掛けて頂き、利用者様の座る席までも事前に配慮頂き、町内の皆様と交流をしています。

他には、近くの教会の皆さんに、イースター祝賀会 クリスマス会にご招待頂く等、毎年交流を図っています。

地域の幼稚園では、運動会、クリスマス会に声をかけて頂いて、運動会には園児と一緒に徒競走の種目も加えて頂くなど心温まる受け入れをして下さっています。

そのほか、市内のGH利用者様たちが集まり 合唱団を結成。毎年 北見合唱隊に参加して元気な利用者様の姿を市民の方々に披露しています。

その他、医療連携の充実を図り内科、脳神経外科に往診をお願いして月に2回、利用者様を診て頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成23年7月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念として、『第二の我が家を目指して地域とふれあう』ことを念頭においており、平成18年より町内の行事参加や、地域の幼稚園、教会、企業との交流を継続して行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、毎月のやわらぎ通信を町内回覧板で回して通知しています。昨年度は班長の役割を担い、町内会行事にも招待して頂き交流を楽しんでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地元信用金庫の職員さんにご利用者様とで公園の清掃活動を行っており、認知症の方への理解とお年寄りとの交流を続けています。他、キャラバンメイトとしても活動しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、ご利用者様の様子や施設の取り組みを報告。外部評価結果についても報告し、参加者のご意見をサービスに反映しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の相談ごとは市役所の担当の方に、その都度意見を求め、協力を頂きサービス向上に活かしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、ご利用者様の解放的生活を尊重するために、日中は出入りが自由に出来るようにしています。身体拘束については、会議の中で話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、ご利用者様の身体状況の把握を常時行い、痣や傷を注意深く観察。発見時には、どのように出来たものなのか明確にするようにしています。会議の中でも虐待について話し合いをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設ではご利用者様の資産管理を慎重に考えており、すでに平成18年より権利擁護、平成19年より成年後見人制度を活用し、現在3名のご利用があります。ご家族様のご理解の下、施設として帳簿の管理などでも協力しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入所希望者の状況を把握して施設での生活をご説明し、その上で不安や心配事を傾聴し説明後、契約しています。解約については重要事項説明書などを用いて説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、ご家族様、ご利用者様の参加を頂き、ホーム職員や包括職員等に意見を話せるようにしています。他、面会時には管理者、職員よりご利用者様の近況を報告し、意見を聞くことを心掛けています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一回程度、アンケート用紙を用いて職員に業務改善、要望について聞き取りし、施設長を交え改善に向けての話し合いを行っています。職員によっては、意見が反映されてないと感じている者もいることから、意見を伝え易い環境改善が必要と考えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境整備に関して、人事労務上のコンプライアンスを遵守することで、職員が安心して働ける環境を構築し、積極的かつ自律的に業務を行えるよう努めている。また職員へのアンケートや交流の機会を持つなど、常に職員の声をきくことにより問題点に迅速に対応する努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自らの資質向上を図り、仕事へのやりがいを感じられるよう、経験年数等に合った研修会への参加を促し、また職場内の会議時に研修報告を行いチームケアを推進していくことにより、職員の成長に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる勉強会等に積極的に参加し他事業所職員と交流できる機会を設けている。開設当初より北海道認知症グループホーム協会へ入会、定期的に職員は協会主催の研修会に参加している。他事業所への訪問、また受け入れも随時行うことにより情報を共有しサービスの質の向上につなげている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に可能であればご家族様とご本人様に施設の見学をして頂きそのとき感じた心配などの対応について説明しています。見学に来られない場合でも必ず面会し、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に必要な持参品用意の相談や、ご利用者様のケア対応について詳細に話し合いながら安心してご利用頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅生活維持の可能性をふまえながら、現在の問題点をご家族様と話し合い施設サービス利用の判断を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と生活する上で『その人らしさ』を理念に掲げ、暮らしを支える者として接しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、施設のやわらぎ通信を各家庭ごとに作成して、ご利用者様の様子を報告し、行事の参加などで一緒に過ごせる時間を設けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎年、馴染みの方達へ年賀状を贈る支援を行い、関係が途切れないお手伝いをしています。馴染みの場所へは体力的問題などもあり、数多く行き来が出来なくなっている場合もありますがご希望に添えるように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席は、食べるペースや相性などを考慮し、協力して食器の片付けができるようにしています。外出や行動を共にするときに、ご利用者様同士が楽しく関われるように組み合わせを考えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所したご利用者様が入院中であれば、面会に訪れたり、退院後の相談を受けたりしながら経過を見守っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の外食の希望、買い物、美容室等の希望に添える介助を行っています。外出については回数、場所により全て叶えられていない場合があり、今後改善を検討したいと思っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にセンター方式のアセスメントを用い、出生時から現在に至るまでの、わかる範囲で家族に聞き取りをして今までの歩みを把握することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はご利用者様の一日に起きた出来事や様子を個別の記録に残し、心身の観察が必要な時には、次の職員に申し送って継続的にご利用者様を把握するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議の中で、ケアの方法、リスクマネジメントについて検討し、ご家族様にも相談して介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の言葉や行動の中で変化が出たときなど個別の記録に記入後、業務日誌にも記入して、職員間で情報を共有し実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所の際の荷物運搬の手伝いや、入院中にご家族様の対応が出来ない時などの面会や洗濯物のお手伝い、帰宅時の送迎などご家族同様の対応を心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元信用金庫の職員に援助して頂き、地域の憩いの場である公園の清掃活動を毎年行っています。他、地域幼稚園の運動会に施設のお年寄りや園児が共に走る種目を作って頂き楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の主治医とは、電話やメールなどですぐに連絡が取れる状況を築いており、ご家族様の要望を取り入れた医療に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が毎週訪問する際に、ご利用者様の健康状態を報告し、相談や確認をして頂きながら支援を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護添書を送付して施設内の生活状況を報告し、入院中についてもご利用者様の早期退院に向けて協力を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成23年1月には運営推進会議の議題として訪問看護師を招き、ご家族様とターミナルケアについて話し合いを行いました。今後も施設の方針を明確にして支援の協力体制を整えて行きます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設急変マニュアルを用い研修を行っていますが、定期的な訓練までには至っていませんので、今後看護師を招き、定期的な訓練を行いたいと思っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員と地域住民を対象に年に一度 消防署職員を交えて火災訓練を行い消火、通報、避難訓練を実施しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時は誘導や失禁時の声かけの配慮を行い、認知の低下による行為などについても自信を損なわないよう心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴については、ご利用者様の意向によって決めて頂き、外出や買い物についてもご利用者様のご希望を話して頂くように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけお一人ひとりのペースで個別のご希望に添いたいと考えてはおりますが、ご満足頂けるまでには至っておらず、今後検討して行きたいと思っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性のご利用者様は、スカートを好む方や老けて見えることを好まず定期的に髪を染める援助を行い、ご家族様のご意向も取り入れながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の桜餅やおはぎ作りと一緒に楽しんだり、日常的に調理の手伝いや、食後の片付けを役割を持ってご利用者様皆さんが協力して行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お1人ひとりの食事摂取量を毎食把握し、水分については、一回の量がある程度定め飲んだ回数を把握し栄養、水分を確保できるように努めています。他、嚥下状態によっては形態を工夫し、好みのおかずを出すなど対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前には、歌をうたって唾液の分泌を促し、毎食後お1人おひとりにあった道具を使って、口腔ケアを行い就寝時にはポリデントに漬けおきし清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の残存能力を生かし可能な限りトイレでの排泄を心掛け、おむつの使用を減らす努力をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	器質性や運動不足による便秘については、医師と相談しながら改善策を検討し、食事で改善できるものにおいては、形態や栄養分を考慮して便秘解消に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月曜日から土曜日までの、午後から夕食前までで行い、その中でご本人様の体調と意向を反映しながら入浴頂いております。それ以外の時間帯では人員配置により困難な状況です。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の生活歴や一日の生活を把握し、その日の体調や活動を考慮して休息や安眠できるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方薬ファイルを作成して職員が常に確認できるようにしています。処方薬の変更については、業務日誌に記入して確認でき、職員が申し送りをして周知をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設のお手伝いなど役割を持って行って頂き、職員は感謝の言葉を伝えています。嗜好、楽しみにおいては、飲酒の要望や手芸などの支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の体調や筋力低下によって全員を同じように外出支援できているとは言えませんが、年に一度、全利用者を対象に家族と温泉一泊旅行を実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の金銭所持については、制限をせず、ご希望に応じてお金を使える支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様宛に荷物が届いた時にはご本人様より電話を掛けていただいたり、御礼の手紙を書くお手伝いをしています。その他にも必要に応じて交流ができるように配慮しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなどの共有場所には表示をして混乱を予防しています。各居室やリビングには温度計を設置して適温で生活できるように配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たい方は居間のソファで見ることができ、ソファに座る位置も自分で選べるようにしています。会話を楽しみたい時には食堂で話ができるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、自宅で使っていた茶碗、箸など使い慣れた物を持参頂くようお願いし、在宅中と変わらない雰囲気の中で過ごせる様に、ご家族様と協力しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は自立した生活を営むために必要な物、必要な環境を考慮し、過剰な介助を控え残存能力を生かして自立した生活を送れるように心がけています。		